

札幌におけるかな講習会

令和6年4月20日・21日

《道立道民活動センター かでる2・7》

札幌かな講習会を終えて

実行委員長 佐野東生

令和6年度の全日本書芸文化院主催「北海道札幌かな講習会」は、平年より13日も早い桜開花宣言直後の4月19日、東京でお仕事を終えた杉浦華桂先生、原田弘琴先生、北山成子先生の3名の講師陣の方々が夕刻から夜半にかけて順次新千歳空港に到着。低気圧による強風、高速道路渋滞などの影響で札幌入りも遅れ、お疲れにもかかわらず遅い時間からの前日打合せに臨みました。

講習会は、4月20日、21日の土日、札幌市の中心部にある「かでる2・7」において、初日は小雨、気温8度と肌寒いなか日本の面積の2割を占める広大な北海道各地から26名の役員、受講者等にお



集まりいただき、岩本宗社長、岩本流星様、講師の先生含め総勢31名により13時から実施されました。

会場の「かでる2・7（北海道立道民活動センター）」8階研修室では、開講式後、杉浦先生からの全書芸の必須古筆、簡単な書道の歴史、色紙や条幅の書式、筆の使い方など座学による講義から始まり、各先生方による細字、条幅などの添削、実技指導、翌日は作品研究、昇段級受験者への実技指導、作品講評など多方面からのご指導が行われました。

実技指導開始の細字から3名の先生方の机の前は長蛇の列となり、条幅では机上はじめ受講者のもとを個別に回りながらの添削など、一人ひとりに懇切丁寧な説明と実践、そして全体にかかる話はホワイトボードを活用してのわかり易い解



変有意義な講習会でした。

講師先生方の熱意が多くの受講者の心に深く刻まれた2日間、受講者一同衷心より感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。

説、最後の講評では各作品を一点ずつじっくり解説され、その後先生方のたくさん参考作品展示など、実りある2日間があつという間に終了しました。

先生方の受講者に寄り添った親身なご指導、講習会後の作品添削の紹介、最高の技術の実践など会場は熱気に包まれ大



函館における漢字講習会

令和6年5月18日・19日

《函館市芸術ホール》

函館漢字講習会を終えて

実行委員長 高橋玉堂

函館の桜の名所五稜郭にて、五月十八・十九日の両日、社長臨席の下、北海道漢字講習会が、講師に吉田代表、金子、古谷、福山の各先生を迎え、五十四名の参加を得て開催されました。（二名の欠席あり）

高校生から八十代までと巾広く、初参加の受講生も多く心配しましたが、各講師の全体講義、そして実技指導（添削）と進み、会場の緊張感も解け、講師先生との会話も弾んで来ました。反面講師先生には、二日間受講生のレベルに合わせた確且つ熱心な指導で、休む間も無く、本当に御疲れ様でした。

受講生にとつては、各先生の筆使いを観ることは、何よりの勉強だったと思います。しかし、一見して、書技をマスターすることは不可能で日々努力精進する事の大切さを学んだ二日間だったと思います。



最後に、各先生からの作品批評会。楽しい抽選会もあり、無事初の函館における漢字講習会を終える事が出来ました。

実行委員長とは名ばかりで、只々ウロ／＼するばかりで、社長・各先生・各実行委・そして参加者の皆様の御陰と厚く／＼御礼申し上げます。

「参加して良かった」との声に救われました。

漢字講習会に参加して

池翠支部 永田佐和

函館での漢字講習会は初めての開催でした。十勝池田より南千歳で乗り継ぎ長時間かけて函館に到着。初日は準備等があるので早目に会場入り致しましたが、既に大勢の受講者が作品を広げて意欲的に書き始めておりました。函館市では5月18、19日と五稜祭りで街は観光客で賑わっていましたが、会場内は外に負けないくらいの熱気で作品批評会では真剣にメモを取り、向上して行こうとの強い意志を汲み取れました。次年度開催地は池田町での三回目の講習会となりますが、函館講習会参加者の皆様の書に向き合う真摯な姿勢に感動と共に講習会の重みを感じ、また責任をも感じました。池田町は北海道でも晴れの日が多い地域です。五月晴れの清々しい時期に開催される池田講習会に多くの皆様の参加をお待ちしております。最後になりましたが、先生

方遠方より来て下さりご指導本当に有難う御座いました。実行委員の皆様、事前の準備等、そして心配りながらの進行には大変ご苦労された事と思います。充実した二日間を有難う御座いました。



香川における講習会

令和6年5月25日・26日

《栗林コミュニティセンター》

香川における講習会を終えて

実行委員長 白井富代

五月二十五、二十六日と二日間講習会が、栗林コミュニティセンターで、開催されました。地元の方が多い中で、広島、山口、神戸、岡山からも出席くださり、二十七名の方々に参加戴きました。講師として中央から、小林幸子、水越幽峰、大久保樹心の各先生方、本院社長岩本宗様の四人をお迎えし、先生方は二十四日から会場見学。二日間共天候に恵まれ幸福でした。

当日はいつものごとく、先生方はお茶を飲む時間もなく、一つでも多く先生方のご指導を頂こうと待ち構える受講生に対応され「かな」の方では、長い列が出来た程で



した。一方の漢字は書いてある時から先生が見てくださり、紙と字のバランスとか、線の強弱等、日頃我々が気にしていない

所も注意してくださり、受講生の方々も納得。充実した二日間でした。

先生方にまずお礼を申し上げます。遠方からお出かけくださった方々にもお礼を申します。何かと不行き届きの点、お許しくださいませ。次回も受講生の多い事を祈っております。

初めて講習会を受講して

町川抱雲

全書芸を始めて三年半。週に一度数枚練習したものから自分で選んで提出していましたが、限界を感じ始めたところでした。今回香川の会場が家から近いこともあり、漢字部で初めての講習会を受講することにしました。

講師の先生からは受講生一人一人に対して全体構成や運筆・用筆法等について、丁寧で細やかな添削や言葉かけがあり、古典の大切さや書の奥深さ・楽しさを教わりました。

個人的には、用紙選びや筆に含ませる墨量と墨継ぎ、文字と文字のつながり等、忘れがちになっていた基本的な事柄や心構えを振り返ることができた貴重な体験でした。また受講生の真剣な眼差しや熱意も印象的でした。

今ふと、講師の水越幽峰先生の新春随想にあった『縁尋機妙』を思い出しました。素敵な縁と機会をありがとうございます。



東京における講習会

令和6年6月1日・2日

《飯田橋レインボービル》

東京における書道講習会

実行委員長 福山行雲

一時は台風が心配されましたが、あまり影響もなく初日を迎えることができました。会場は昨年と同じ飯田橋レインボービルの一階と二階を使用し、六月一日と二日に実施されました。

今年の参加者は漢字部三十五名、かな部十五名で、この中には福井・新潟・静岡・三重の遠方からの参加もあり、受講生の意欲を感じました。

講習は昨年と同様に、師範受験、一般条幅受験者を対象にした内容になり、中会議室一階は漢字部、中会議室二階は、かな部が使用し、ゆったりとしたスペースの中での実技となりました。

一日目は漢字かな共に臨書課題、二日目は創作で、まずはじめに主任講師からの解説があり、その後それぞれの列ごとに担当講師の助言のみで進め、次に朱墨で添削巡回する進行方法をとりました。会場内は講師が目の前で揮毫すると、運筆のリズムや墨継ぎによる潤渇の変化、太細の変化等に目を見張る表情が多く見られました。かなり長い練習時間でありながら集中力を維持して熱心に助言に聞き入り、記録をとったり、用運筆を反復練習する受講生の姿に感銘を受けました。

二日目午後の部も終わり、閉講式では吉田代表から温かい励ましの言葉がありました。また、玲湖支部の大熊真葉さんが心のこもった謝辞を述べられました。

今回の講習会で残念に思ったことは、受

講生の数が漢字部・かな部共に減少したことです。諸般の事情等があると思いますが、同じ志を持つ者が一同に会し練磨する意義は大きいと思います。来年は是非多くの方々の参加を期待します。最後になりますが、講師の先生方の献身的なご尽力に感謝申し上げると共に受講者の皆様の更なるご精進を心より念じております。

受講をおすすめします

分須和枝

仮名が苦手で、師範試験にはまだ遠いのですが、仮名とは何ぞや、何をもって良とするのか…突破口を探すために参加しました。

家を出てから帰るまで書のことだけ考えるという贅沢な二日間、空調のきいた会場なのに頭がフル回転しているせいで汗をかき、本当に有意義な講習会でした。目の前で、惜しげもなく筆さばきを見せてくださる先生方。書いている私にずっと「ゆっくり!」「我慢!」と声をかけ続けてリズムを教えてくださいださる先生。筆の開閉につながる筆の立ち上げ方を、手を取り、繰り返して一緒に書き、「さ、やってみて」と確認までしてくださいました。御教授、誠にありがとうございました。皆さんも是非一度参加してください。背筋が伸びて気合いが入ります。取り組む気持ちや成績が停滞気味の方には特に勧めます。

この講習会が今後も末永く続きますよう心から願っています。

